

開講期	2026年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5337 日本古語を学ぶ②			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	人数制限(抽選)			定員	100
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	水曜3限				
教室	B207教室				
代表教員	津田 博幸				
担当教員	津田 博幸				
テーマと到達目標	『源氏物語』を通して古代日本語を読めるようになることと、古代語を通して日本語について深く考えられるようになることを目指す。『源氏物語』は第一級の文学である。そして、その文章の凄さ・おもしろさは原文(古語)で読まないといけない(『源氏物語』に対して現代語の訳本はみな無力である)。初学者でも大丈夫のように手引きする。辞書を引き引き苦労しながら、しかし、ぜひ楽しんでほしい。				
概要	前期からの引き続きで「須磨」の巻を読む。主人公光源氏は官位を剥奪され、自発的謹慎生活を送ることになる須磨の地へ向かうが、その前に藤壺との不義密通の手引きをした女官の王命婦と別れの言葉をかわし、愛妻紫の上と別れの歌を贈答した上で旅立つ。そして、須磨到着後も都に残った女性たち源氏との歌の贈答が描かれる。この丹念な叙述が物語の悲劇性を深めてゆくのである。このあたりを原文を読みつつ考えてゆく。講義形式。なるべく楽しくやりたい。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	前期までのストーリー・主要登場人物の確認。				対面授業
第2回	東宮に仕える王命婦、源氏の手紙を読み、苦悩しつつ返信する。				対面授業
第3回	源氏の須磨退去に対する貴族社会の反応。				対面授業
第4回	源氏と紫の上、別れのひとときを過ごす。				対面授業
第5回	源氏と紫の上、別れの歌を贈答する。				対面授業
第6回	源氏、船に乗り須磨へと出発する。				対面授業
第7回	源氏、船中で歌を詠む。				対面授業
第8回	須磨の住まいの様子。				対面授業
第9回	源氏、藤壺へ歌を送る。				対面授業
第10回	源氏、朧月夜へ歌を送る				対面授業
第11回	都の紫の上の様子。				対面授業
第12回	紫の上、源氏を思う				対面授業
第13回	語り手、紫の上の心情に同情する。				対面授業
第14回	藤壺の様子。				対面授業
第15回	藤壺・朧月夜の源氏への返歌。				対面授業
成績評価の基準	全授業時数の3分の2以上の出席と課題提出を必須とする。毎回、授業後にポータルを通して課題(その日の講義内容に対する理解の確認、発展的考察・質問などを200字以上)を提出。毎回の課題の評定の総計で評価する。				
履修にあたっての留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本古語を学ぶ1」(前期)と合わせて履修されることをお勧めする。</li> <li>・国語の教員免許取得希望者はぜひ履修してほしい。</li> <li>・古語辞典を持参すること(高校時代に使っていたものでよい。電子辞書も可)。</li> <li>・オンライン授業の併用は原則として行わないが、受講者に病気等のやむをえない事情がある場合はZoom中継の視聴および講義後のZoom録画の視聴を認める。希望者は講義開始の30分前までにポータルの「授業Q&amp;A」で申し出ること。</li> </ul>				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					

【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件	下記順位のとおり優先する [1]教職中学校・高校(国語)受講者 [2]T学科の低学年から順に優先 [3]上記[1][2]以外
---------------------	---

## ◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし（ただし、古語辞典は必要）。		
教科書	プリントを配布。	教科書(ISBN)	
参考文献	授業中に適宜指示。	参考文献(ISBN)	

## ◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください <a href="https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html">https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html</a> 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること
--------------------	--